



第1校舎より
ツバメの巣立ち

浦学だより

Vol. 94

☎ 336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山172

☎ 048-878-2101 ☎ 048-878-3335

http://www.uragaku.ac.jp/

発行者 国際教養・ライフスキル教育推進部

編集者 浦和学院高等学校広報・企画局

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

2015.10.1

部活動大会報告

インターハイ・全国大会出場

男子ハンドボール部 全国3位!!

平成27年度 全国高等学校 総合体育大会 **ベスト4!**

本校男子ハンドボール部は、準決勝で延長戦の末、法政大学第二高校(神奈川県代表)に一点差にて惜しくも敗れ、第3位となりました。

前半は、一時2〜3点差がつく場面もありながら、後半34対34にて同点、延長戦へと続き、開始から終了まで互いに一步もゆるすることなく戦い抜きました。今回の準決勝の相手は、2月の関東選抜大会での決勝戦でも対戦し、優勝目前で逆転負けを許した相手でした。春の選抜大会に次ぐ夏の優勝という目標を達成するためにも絶対に負けられない一戦であっただけに、今回、一点差で敗れた瞬間、監督・選手・応援席に大きなどよめきと悔しさが滲みしました。しかし、常に高みを見、成長し続け感動を届けてくれているハンドボール部。この悔しさを次につなげ、再び全国の舞台で活躍してくれることに期待したいと思います。戦い抜いた選手たち、全国3位の大健闘、お疲れ様でした。そして、多くのご声援をありがとうございました。

準決勝	37-38	対	法政大学第二(神奈川県)
準々決勝	32-23	対	大阪体育大学附属(大阪府)
3回戦	32-25	対	県立小松工業(石川県)
2回戦	39-28	対	県立小林秀峰(宮崎県)
			(初戦)



3年G組 関 根 源 哉 (三郷市立北中学校出身)

私たち男子ハンドボール部は、春の全国選抜大会優勝から、インターハイ優勝と春夏連覇を目指して練習していました。インターハイでは、2回戦から準々決勝までは危なげなく勝利することができました。準決勝は先日の関東大会で勝利した相手でした。延長戦までもつれる白熱した試合でしたが、1点差で負けてしまい、インターハイは3位という結果で終わりました。1、2年生にはもう一度全国優勝を目指し頑張ってもらいたいです。日頃から厳しく指導して下さいた岩本先生をはじめ、応援していただいた保護者の方々、浦学ファイヤーレッズの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。3年生も次のステージで頑張りたいと思います。これからも浦学ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。

テニス部女子

3年K組 南 文 乃 (所沢市立山口中学校出身)



私は、インターハイで個人戦のダブルスに出場しました。団体戦ではインターハイに出場することが出来ず、部員全員がとても悔しい思いをしました。そのため、個人戦では、例年以上に仲間の思いも背負い戦いましたが、優勝には届かずベスト4という結果でした。準決勝は3時間に及び戦いました。試合ではいつもの調子が出せず、結果・内容共に悔いの残るものとなりました。しかし、ここまで戦い抜けたのも今

まで一緒に頑張ってきた仲間や先生方、コーチ、保護者など支えてくださった方々のお陰だと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。3年生はこれで高校の大会が終わりとなりますが、後輩たちにはこれまでの悔しさをバネに、より一層練習に力を入れ、選抜大会、インターハイと勝ち上がって欲しいと思います。今後ともテニス部の応援をよろしくお願いします。

テニス部男子

2年K組 秀 一 輝 (越谷市立栄進中学校出身)



私たちテニス部男子は、個人戦のダブルスでインターハイに出場することができました。1回戦では、インターハイという大きな舞台で動きが固くなっていたものの、なんとか勝ち進み、1回戦では格上とされていた相手に勝つことができました。しかし、3回戦で負けてしまい、結果はベスト16でした。私たちがここまで戦えたのも私たちを支えてくれている顧問の先生やコーチ、保護者、チームの仲間のおかげだと思います。全国ベスト8の壁を越えるにはまだまだ練習が必要です。そして、団体戦でもインターハイに出るため、チーム一丸となり練習を頑張りたいと思います。これからもテニス部の応援をよろしくお願いします。

間のおかげだと思います。全国ベスト8の壁を越えるにはまだまだ練習が必要です。そして、団体戦でもインターハイに出るため、チーム一丸となり練習を頑張りたいと思います。これからもテニス部の応援をよろしくお願いします。

パワーリフティング部

2年I組 村 上 翔 太 (越谷市立東中学校出身)



私たちパワーリフティング部は、8月2日の全国大会で、以前からの目標であった団体3位という結果を残すことができました。また、3年生最後の大会ということもあったので、みんな一致団結してベストを尽くすことができました。個人では思っていた通りにはいかず、全9試技のうち5試技も失敗してしまいました。しかし、ベンチプレスでは練習中重かった重量であっても、皆の応援のおかげで軽

く挙げることができました。次の全国大会で団体戦1位を目指し、それぞれ今以上に努力して各階級で1位を狙っていきます。これからも、応援をよろしくお願いします。

ソングリーダー部

2年G組 森 田 智 瑛 (熊谷市立江南中学校出身)



私たちソングリーダー部は、8月23日、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で行われた「School & College Competition 2015」に出場しました。今大会のためにコーチから新しい振り付けを頂き、私たちなりに躍りの見せ方を工夫したりしながら毎日練習をしてきました。しかし、目標としていた結果には及ばず、悔しい気持ちが残ったまま終わってしまいました。会場の声援や学校、保護者の皆様そしてコーチや先輩の応援のおかげで、それぞれの思いを胸に抱けた良い大会となりました。また、今大会で見つけた課題を、今後ある数々の大会に向けてチームの皆でひとつひとつ解決し、チームワークを高め、まずは次の大会である「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPION SHIP 2015」に全力で挑みたいと思います。

私たちはソングリーダー部は、8月23日、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で行われた「School & College Competition 2015」に出場しました。今大会のためにコーチから新しい振り付けを頂き、私たちなりに躍りの見せ方を工夫したりしながら毎日練習をしてきました。しかし、目標としていた結果には及ばず、悔しい気持ちが残ったまま終わってしまいました。会場の声援や学校、保護者の皆様そしてコーチや先輩の応援のおかげで、それぞれの思いを胸に抱けた良い大会となりました。また、今大会で見つけた課題を、今後ある数々の大会に向けてチームの皆でひとつひとつ解決し、チームワークを高め、まずは次の大会である「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPION SHIP 2015」に全力で挑みたいと思います。

馬術部

3年U組 村 山 大 河 (川口市立安行中学校出身)



私たち馬術部は、関東高等学校馬術リーグ戦で、厳しい戦いの中3位に入り、インターハイに出場することが出来ました。私たちは、過去の先輩たちの記録であるベスト8を目標にして練習してきましたが、結果は1回戦敗退でした。しかし、この敗退の原因は練習での悪い癖が出てしまったことだと分析したので、この思いを後輩たちに託し、来年またこの舞台に戻ってきてほしいです。そして、絶対に

1回戦を突破してほしいと思います。私は、馬術部の部長になり、インターハイに出場出来たことをとても誇りに思います。自分がかつてやってこれたのは、先生・先輩・後輩・両親の支えがあったのおかげだと思います。これから馬術部はさらなる結果を求め、日々練習に励んでいきたいと思うので、皆さん、これからも応援よろしくお願いします。

美術部

3年X組 荒 木 加 奈 子 (さいたま市立春野中学校出身)



私は、埼玉県の代表として、「第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会」に参加しました。私が参加した美術・工芸部門には審査はなく、1日目は作品の講評の他、滋賀県出身の漫画家である森田まさのりさんの講演会が行われました。また、2日目には生徒交流会が行われ、とても充実した濃い2日間となりました。

2日目の生徒交流会では、20人ほどのグループで1つの作品について、とことん感じた事を互いに出し合いました。そして、5、6人のグループになり、それぞれの作品を鑑賞し合い、意見交換や作者からの絵の説明を聞いたりしました。こうした活動は、普段美術部では行っていないのでとてもおもしろく、自分の絵についてもう一度深く考え直す事ができました。この大会に出場し、感じた事をこれからの制作に生かしていこうと思います。

芸術鑑賞会



1年G組 篠崎 佑馬
(川口市立上青木中学校出身)

進学類型

今回、浦和学院芸術鑑賞会として中国民族歌舞団の様々な雑技を鑑賞しました。彼らの、予想をはるかに上回る素晴らしい雑技に私たちは釘付けになりました。最初の皿回しでは、8つの皿を同時に回したまま、様々な動きを。水流星では、不安定なヒモを自在に操り、数々の大技を。そして、中国秘技、「変面」では、私たちは驚きを隠せませんでした。顔に被った面を、一瞬のうちに交換していく早技に感動しました。鞭の芸では、目隠し状態で口に花をくわえた藤野先生に向けて力強く鞭をふるい、正確に花だけを落とす凄技を見せていただきました。何より、高い椅子のバランスでは、4つのピンの上にいくつもの椅子が積み上がり、その上で披露される技は、私たちでは地面の上ですら、形も真似できないようなものばかりでした。



今日、目前で披露された素晴らしい雑技を見て、中国の伝統や歴史に興味を持ち、もっと中国という国を知りたいと思いました。

2年C組 荒井 一希
(越谷市立千間台中学校出身)

特進類型

今回芸術鑑賞会では、歌舞伎という日本の伝統芸能を初めて生で観させていただきました。これまで、歌舞伎はあまり接する機会がなかったため、難しいと感じる場面が多かったです。しかし男性が演じていた、女形の役は、男性とは思えない程女性の立ち振る舞いや表情が表現されとても素晴らしいと思いました。

そして歌舞伎役者の方たちは、毎日毎日稽古を重ね、怒られたり怒鳴られたりしながら舞台上に立っているのだらうと想像しながら観賞していました。やはり、舞台上に立つということは並大抵の努力では成し遂げられることではないと感じました。

普段は、映画を見て面白いと感じたり感動することしかなかった自分自身が、歌舞伎を見ることができ、ひとつ成長できたのではないかと思います。

私も大学受験という舞台に向かって、日々勉強という稽古を重ね、悔いのないように大学受験という大舞台に挑んでいきます。



1年Q組 江袋 由紀 (川口市立幸並中学校出身)

2日間のキャンプを終えて、学べたことが2つあります。

1つ目は、周りの人と協力することの大切さです。クラスで初めての行事だったので、みんながそれぞれ色々な意見をもっていることが分かりました。その中で、どれだけ全員でまとめることができるのかは、とても難しいことだと思いました。このことから、周りの人と協力することは大変なことだと学びました。

そして2つ目は、周りの人の気持ちをしっかり考えることです。自分のことばかりではなく、他人のことも考えられるようになると周りの人の気持ちも分かってくるんじゃないかと思いました。

私たちににとって初めての行事で不安なこと、大変なこと、色々ありましたが、バーベキューも楽しかったし、みんなとの仲も深まったんじゃないかと思います。これからも、クラスでまとまって協力していけたらいいなと思います。



キャリア ガイダンス



1学年進路指導課長
青木 秀彦

今年度も1年生を対象に、職業について研究するための「キャリアガイダンス」が行われました。毎年行われる行事ですが、過去最高の923名の参加で、メディアや音楽、公務員、保育など26種類32講座を開講しました。生徒は進路に対しての行事としては初めてのことで、上級学校の先生方をお呼びして講義を受けたのですが真剣な眼差しで受講していました。二者面談などを通して、漠然と将来の職業などを考えていたところだったと思いますが、専門的な話を聞いて改めて考えることがあったのではないのでしょうか。これをきっかけにして、2学期に始まる文理選択について深く考え、慎重に決定してください。

27年度 受験シーズンに向けて



進路指導部長 高橋 広和

夏休みが終わり、今年も本格的な受験シーズンを迎えます。3年生たちにとっては、これまでの努力の成果が試される時期となるわけですが、今年の3年生たちを見てみると、全体的に弱気の出願になるのではないかと感じています。しかし、これは本校だけに限ることではなく、全国的な傾向でもあります。また、最近の生徒は、何事も効率的に取り組もうとする気持ちが強く、必要以上の知識を求めようとしないことが気になります。教科書や参考書に書かれていることを覚えるだけでは、現在の大学入試は通用しません。学習意欲や知的好奇心といったものが根底にある生徒とない生徒では、同じ勉強をしても学力の定着度が大きく異なります。もっと興味の範囲を広げ、どのような角度から出題されても対応できる力を身につけてもらいたいと考えています。

平成26年度入試を振り返ってみると、これまで以上に変化の激しい年だったように思います。まず第一に、数学と理科が新課程での入試となったことが挙げられます。また、志願者動向を見ると、ここ数年続いていた「文低理高」の傾向が就職状況の好転により、文系人気が回復し、「文理均衡」へと変化しました。このほか英検やTOEFLなどの「英語外部試験」を活用する動きが広がっていることも注目すべきポイントです。大学受験のカギを握っているのは、今も昔も英語の成績であります。試験方法が変われば当然その対策も変わってきます。受験生はこれらの変化に素早く対応する能力も必要とされています。

変化の激しい現在の大学入試だからこそ、高い志と強い信念を持って立ち向かってほしいと思います。

特進夏季進学合宿

特進推進部
1学年指導係長 盛山 哲志

7月26日～7月30日まで、特進類型では長野県車山高原において夏季進学合宿を実施しました。3年生においては、高校生活最後の合宿でもあり、勝負の分かれ目でもあります。自習時間も含め鬼気迫る勢いで取り組んでいました。1、2年生においては1学期の総復習を完成させる期間でもありますので、3年生の勉強に対する雰囲気刺激を受け、皆真剣に取り組んでいました。合宿中1年生は霧ヶ峰登山を実施したり、2年生においては修学旅行先で披露するエイサーの練習をしたりとリフレッシュする時間もありました。その一方で、任意での参加にも関わらず、毎朝5時から行われている自習時間に出席する生徒が例年以上に多く、大変向上意識の高い合宿となりました。また、最終日においては、合宿中に実施したテストの成績優秀者を表彰するなど、達成感のある充実した合宿になりました。



大学・短大説明会

3学年進路指導課長 仁科 達夫



平成27年7月6日(月)、73校の大学・短大の先生が来校され、3年生対象に相談会を実施しました。前日は、台風の予報があり天候が気になりましたが、当日は雨も降らずに開講できました。事前にオープンキャンパスに行って進路が決定している生徒や、まだ数校の中で悩んでいる生徒も大学の先生方の説明を真剣に聞いていました。また、

12時で終了の予定でしたが、最後の面談が終わったのが30分を過ぎていました。自分が納得いくまで面談をしていたことに感謝しました。

夏休みも終わり、いよいよ3年生は本格的な受験シーズンに突入していきます。この入試相談会で目標とする学校を見つけた人は少なくないはずです。どんな時でも目標を見失わずに信念を持って突き進み、かつ冷静に進路活動に取り組んでもらいたいと思います。

ボランティア報告



3年W組 高 鹿 穂乃花
(三郷市立早稲田中学校出身)

活動場所 かわぐち翔裕園
活動内容 納涼祭のお手伝い

今回私は、川口市にある老人福祉施設で行われた納涼祭のイベントボランティアに参加してきた。主に、お祭りへの誘導をしたのだが、初めに、全員で担当者の方とお話をし予定の確認をした後、柏という2階のフロアにある1室を1人で担当することになった。その部屋は、職員の方の男性3名、女性2名の計5名に対して、利用者様は6名だった。外の気温が38度あったため、お祭りは4時からと遅く始まり、時間になるまで、氷にタオルを巻いた首当てをつくる熱中症対策が行われた。時間になると利用者様6名のうち希望で2名が外のお祭りへ行くことができた。2名のうち1人は自分で動くことができる方、あと1名は自分で動くことができない方だった。相対する2名であったが、その方に見合った対応が出来たのではと考える。今回の体験で、こちら側の自発的な行動は、利用者様にとって、自分で出来ることを奪ってしまうこともある、と気づいた。利用者様とのかけ引きが非常に難しい仕事であると身を持って体感した。

2年G組 松 澤 祐 実
(さいたま市立第二東中学校出身)

活動場所 蓮田ナーシングホーム翔裕園
活動内容 誘導・介助



今回2度目のボランティアに参加させていただきました。蓮田ナーシングホーム翔裕園では、主にご利用者様の誘導をしました。車いすの方や、普通に歩ける方など、様々な人がいましたが、どの方もとてとても元気で、ゲームでは、景品をもらって喜んでいるのを見てこちらまで嬉しい気持ちになりました。私が車いすの扱い方に慣れてなくて、社員の方に手伝っていただくこともあり、申し訳ないなと思ったので、次回機会があったら、それまでに車いすの扱い方を勉強しておこうと思います。今回のボランティアでは、少し迷惑をかけてしまったと思うこともあり、以後気をつけたいと思います。今回ボランティアに参加してさらに良い勉強になりました。次回もぜひまたボランティアに参加したいと思います。



クロス カルチャーツアー

国際教養 2年G組 角 友 樹 (さいたま市立大原中学校出身)

私は、今回のクロスカルチャーツアーに参加して、とても充実した2週間を過ごすことができた。初めての海外研修で、最初の3日間は現地の食べ物や生活に戸惑いもあったが、徐々にアメリカの文化や雰囲気慣れ、自分なりの目標を持って行動することができた。

日本と違い、アメリカは様々な国や人種の人と接する機会があり、肌で世界を感じることができた。一つ一つの出会いや学びが新鮮で今までにない経験や発見をたくさんした。

そのような中で改めて感じたのは英語の重要性だ。実際に、ツアーの英語授業では、クラスメイト全員がアメリカ以外の出身

なのに、ほとんどの人が英語を当たり前のように話していた。

そして、アメリカで働く日本人の方の講義を聞いたり、ホームステイをすることで現地の家族と生活を共にするなど将来の役に立つことを豊富に教えて頂いた。古い固定観念に縛られず、常に新しいものを求めるアメリカ社会は、自分の今までの価値観を大いに見直させてくれた。

最後に、このツアーに参加するにあたって費用を払ってくれた両親や引率していただいた先生、一緒にツアーに参加した仲間から心から感謝したい。

今年も[浦学ふぁみり〜応援写真コンテスト]に応募しよう!

今年もまた、『がんばる仲間をみんなで応援』をスローガンに「浦学ふぁみり〜応援写真コンテスト」を実施します。

部活動大会の
応援時撮影写真など、
生徒のみなさんはもちろん、
保護者の方々からもたくさんのご応募を
お待ちしております。
お子様を通して
ご応募ください。



日 程

- ・応募期間 2015年5月11日(月)～2015年11月27日(金)
- ・投票期間 2016年1月8日(金)～18日(月)
- ・結果発表 2016年2月5日(金)

応募方法

1. 対 象 部活動、学校行事、ボランティア活動など学校生活の様子
2. 提出物 ①写真、SDカード、USBメモリーのいずれか
②応募用紙(用紙は学校に用意しています)
応募者名、撮影日、大会・イベント名、撮影シーンの説明を記入
*生徒の場合は学年・クラスも記入
3. 提出方法 生 徒 → 担任
保護者 → 生徒 → 担任

学校の情報が満載のHP
(<http://www.uragaku-family.jp/>)は
浦和学院ホームページから

「浦学ふぁみり〜」を
ご覧になれます。



2015 サマーアートキャンプ 美術コース

8月26日(水)から28日(金)まで、アートコース生徒33名と引率教員4名によるサマーアートキャンプを行いました。今年で4回目となるサマーアートキャンプですが、今回の写生場所は第1回サマーアートキャンプでも訪れたことのある軽井沢タリアセンでした。タリアセンは、小さな湖が園内中央に広がり、美術館や遊園地なども併設されており、景色を眺めるだけでなく楽しい体験が多くできる観光客にも人気の場所です。

まず、1日目は軽井沢ニューアートミュージアムにて具体美術協会の作品や現代アートの鑑賞をしました。展示作品のなかには、触れられるものもあり、生徒らも楽しみながら鑑賞ができたようです。そして、午後は今回の写生場所であるタリアセンに移動し、各自写生場所の選定を行いました。途中、雨が降ってきたため写生を早めに切りあげ、ホテルの研修室で制作の続きを行いました。そして、2日目はいよいよ彩色です。目の前に広がる緑豊かな風景に生徒らも自然と筆が進みました。2日目の夕食後には中間講評を行い、教員からのアドバイスをもとに、3日目は朝8時から3時間ホテルで集中して制作を行いました。葉っぱ一枚一枚を丁寧に描写する生徒や、形を直す生徒、それぞれが課題をもって取り組むことができたと思います。あっという間だったサマーアートキャンプは、生徒たちの今後の課題を見つけられる有意義な時間になりました。





浦学再開発プロジェクトの一環として、学校敷地に隣接した国道122号付近に、新たな寮(仮称:国際・サッカー寮)の建築を進めている。本校の玄関口の一つとなる埼玉スタジアム側に、浦学カラーと国際色を取り入れた3階建てのデザイン性豊かな建物が存在感を示すこととなる。

本校では、国際教養の浦学を推進しており、欧米・アジア・豪州からの留学生受入や台湾・中国等4校との姉妹校提携や、カンボジア交流プロジェクトとして生徒・教職員が現地訪問をするなど積極的な国際交流を図っている。また、国際類型では、短期・長期留学プログラムが設けられ、異国での国際感覚や語学力を身に付け、進化を遂げている。

サッカー部は、平成26年度より元Jリーグ出身の森山泰行監督を迎え、強化部として新たに始動した。チーム力をより一層高めるため、寮(サッカー寮の定員60名)を新設し統率を図る。建設着工は6月より、竣工は平成28年1月の予定である。



浦和学院高等学校 石巻・東松島交流プロジェクト

「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

何を感じ、何を考え、何を行動するか。

「学習サポートボランティアに参加して」

8月3(月)～6(木)実施

1年H組 金 成 美 月 (蕨市立第一中学校出身)

私が今回のボランティアで印象に残ったことは、津波の被害を受けた土地の復興具合と子どもたちの表情です。

先輩方が1日目のミーティングの時に、昨年までは何もなかった所に建物が建っていたりして「びっくりした」と言っていて、来年はもっと復興が進んでいるといいなと思いました。しかし、まだまだ仮設住宅がたくさんあったり、何も手につけられていない所がたくさんあったりと、完全に復興するのにいつまでかかるんだろうという気持ちになりました。

1日目に大原小学校で地震があった時、子どもたちが机の下に隠れるスピードが速くて驚きましたが、それを見ていて、これが普通なのかなと実感しました。普段、学校の避難訓練で机の下に隠れる時、必ずしゃべりながらやったり、ゆっくり隠れたりする人がいます。子どもたちの行動を見て、改めて避難訓練の大切さがわかりました。

2日目の午前中、寄磯小学校で勉強を教えている時に、とても小さな音でしたが、1日目の地震がくる前と同じようなゴゴゴゴという音がしました。その音に子どもたちが気づき、一瞬で表情が変わり、怖いと言っていました。その時、私は大丈夫だよと声をかけることしかできませんでした。バスの中で団長の車谷さんから「表情が変わることがある、動揺しないように」という話があった時に、対策をもう少しちゃんと考えておくべきだったかなと後悔しました。しかし、笑顔もたくさん見られたので安心しました。寄磯小学校の教頭先生から「いつもより笑顔がたくさん見られた」という言葉を聞き、とても嬉しくなりました。そして、子どもたちと花火をしている時に撮った写真を見返していると、勉強の時には見られなかった笑顔がたくさん写っていたので、私まで笑顔になりました。

海岸清掃では、泳ぐのとは違う楽しみ方ができましたが、砂浜に深く刺さった木などを見て、何とも言えない気持ちになりました。ゴミをたくさん拾うことができ、清掃する前よりもきれいになった海岸を見て、とても達成感を味わうことができました。

最終日に行った大川小学校。私は実際に見るまで、津波にあって裁判を起こしたことくらいしか知らず、どれくらいの被害を受けたのかということまでは知りませんでした。そして、バスの中から小学校が見えた時はショックが大きく、言葉を失いました。お墓に亡くなった方の名前と年齢が書かれていたのでそれを見ていると、9歳や4歳と書かれていて涙が出そうになりました。小学校を見ている時に片方だけの靴を見つけたり、記念碑みたいなものが崩れていたりとか痛くなりました。大川小学校には、人生で一度は絶対に足を運んでほしいです。大川小学校に咲いていた向日葵は今まで一番きれいに見えました。とても充実した4日間になりました。是非、来年も行きたいと思いました



「仮設きずな新聞配布ボランティアに参加して」

7月21(火)～24(金)実施

2年W組 加 藤 海 希 (川越市立東中学校出身)

今回初めて石巻・東松島に行って、説明を受けているときから、まず、被災地という感じがしませんでした。夜行バスを降りて(石巻駅前)、「ここ?」と思うのが素直な感想でしたが、色々見たり聞いたりしているうちに、少し戸惑いを感じました。「大川小学校」や「海の近くのまだ壊されていない家」や「津波被害を受け、住むことのできない家を見てもらえず、自分で放火してしまったという家」。説明を聞きながら見て、言葉が出なかったです。ここに、人にはかなわない大きさの津波が来て、全て持っていかれ、壊されたとなると、辛くて仕方なかったです。「私には、何が出来るのだろう。行っても、怒られるのではないかな。何も分かってなかったな。」と、改めて現実を感じさせられました。

仮設きずな新聞を配布しながら、被災地の人にもいろいろな人がいるのだなと思いました。受け入れている人、まだ受け入れられない人、居留守をする人、涙を流しながら被災したことを話してくれる人。行ってみて分かりました。そして、大切な出会いも体験しました。家が流され、周りの方々を亡くし、1人で仮設住宅にいる男性です。家に上がらせてもらい、そうめんや団子、アイス、唐揚げをごちそうしてもらい、被災の話や将来の話をしました。また、おもしろい話など会話が弾み、友だちのような親近感を持つことができ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

そして、最終日に行った海岸清掃。まだ、ゴミや木が残っていたので細かいものを拾う作業をしました。魚の化石や、花の苗、海藻など、ここには落ちていないようなものが落ちていました。ここに津波が来たと思うと怖かったのが本音でした。しかし、そこにブルーインパルスの訓練をしているところが見られたり、砂を歩いたり、海に足を入れたり、ここでも貴重な体験が出来ました。

そしてもう1つ、焼き海苔体験です。こんな海苔食べたことがないというくらいおいしい海苔を食べ、自分で焼き海苔も体験できました。海苔は、始めは黒く、310℃の熱で焼き海苔にするのを自分で見て、作ってみました。手間をかけているなと感じ、のり工房で働いている人の熱心さが伝わりました。

あっという間の3泊4日。食事、海鮮丼や焼肉定食など現地のものが食べられたり、現地に行ってみて感じた、今の自分の生活へのありがたみや幸せ、支え合っていく人との温かさ。普通と思っていたことの幸せを改めて見つめ直すことが出来ました。そして、人の温かさ、笑顔でいられること、家族がいること、生きられること、学校に行けること、私は幸せなんだと、そして、何かできることはないかと考えました。そこで、仮設訪問の時に「同情されるより、笑顔でいてくれた方が元気がもらえる」と聞いて、これからは「辛い時こそ笑顔でいよう」と、思いました。大切な思い出(体験)になりました。

